



一般社団法人 富山県作業療法士会 ニュース

令和6年度 No.1

第145号 令和6年6月20日

一般社団法人
富山県作業療法士会
発行 会長
会員数：683人
齊藤洋平
印刷 株式会社 チューエツ

富山県作業療法士会ホームページ <https://toyama-ot.org/> 富山県作業療法士会会員数：683人



第21回富山県作業療法学会を終えて

学会長 富山市民病院 佐々木 和也

令和6年2月25日に富山県民会館にて第21回富山県作業療法学会を開催しました。能登半島地震の影響で会場のサンシップ富山が使用不可となり会場探しと同時に学会の中止や延期、規模の縮小なども検討し会期を考えると数日のうちに決断しなくてはならない中、市内同規模の会場は空きがなく、唯一企画を変更せず開催できる富山県民会館の空きがあり心から安堵しました。そこからは会場レイアウトや打ち合わせのやり直し、印刷物の文書修正、関係各所への連絡など怒濤の一か月でした。

本学会は新型コロナウィルスの5類移行後初となる学会であり「新しい学会の形の模索と学ぶだけじゃない楽しめる学会」をコンセプトに企画しました。狙いは全世代対象の学会、子育て世代のOTも子供連れで少しでも参加できないか、また地域共生社会でOTが活躍するにはまず世間にOTを知ってもらう必要があると考えミニマルシェやeスポーツの体験会を企画し一般公開としました。当日は約140名（オンライン20名）のOTが参加し、子供連れで参加してくれたOT、多くの一般の方で会場はイメージ通りの賑わいとなりました。

また本筋の特別講演では村井千賀先生（石川県

立こころの
病院、OT
協会常務理
事）を迎
「新時代で



生きるOTの今と未来への道しるべ」と題して、先生の作業療法士としての経験談、訪問による認知症のリハビリテーション普及啓発事業での取り組みでは日本医師会から作業療法が期待され、かかりつけ医に対して周知普及があったと報告されました。ICFに基づく作業療法の実践など我々OTが生き残りをかけて今後実践していかなければならないと強く背中を押され士会員にはこれからの中堅OT像、自身の目指す道が見えたのではないでしょうか。

「eスポーツ」をテーマにしたシンポジウムでは田中栄一先生（北海道医療センターOT）、富山県高齢福祉課、株式会社ZORGE（eスポーツ関係企業）の各領域の第一人者を招き、この新しい「活動と参加」の分野での作業療法の可能性について考える機会になったと思います。3年ぶりに復活したポスター発表、口述発表は少数精鋭のどれも興味深い演題が集まり、対面ならではの緊張

感や熱が伝わってきました。県士会員の交流を目的に昼休憩に開催した「eスポーツ大会」では斎藤会長と前学会長飯田さんペアが優勝するという出来すぎた結果で盛り上がりいました。

最後に本学会に参加、協力して下さった関係者の皆様に心よりお礼を申し上げ、本学会が無事に成功したことを報告させていただきます。



第21回富山県作業療法学会に参加しました

富山西リハビリテーション病院 植田 寛

富山県作業療法士会員の皆様、こんにちは。富山西リハビリテーション病院の植田寛です。

まずは、2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げるとともに、被災された皆様ならびにそのご家族、関係者の皆様に対してお見舞い申し上げます。被災された皆様の安全と被災地域の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

私は今回、令和6年2月25日に開催された第21回富山県作業療法学会に参加させていただきました。学会は富山県民会館を会場とし、ハイブリット形式で開催されました。「共に考え、共に創る、新時代の作業療法へ変わらない本質と磨き続ける技術で示すOTの存在価値～」というテーマで特別講演やシンポジウム、eスポーツ体験等、様々な企画があり充実した時間を過ごすことができました。私自身、富山県作業療法学会への参加は初めてでしたが、参加者同士が声を掛け合う様子が盛んにみられ、非常にアットホームでいい雰囲気の学会だと感じました。

私は「脳卒中後左片麻痺とPusher現象、空間性・配分性注意の低下を呈した症例に対する、床のテープを方向転換の指標にした移乗練習の試



み」という演題名で口述発表をさせていただきました。症例様は片麻痺の身体で動く事への恐怖心が強く、高次脳機能障害の影響もあり移乗の時に座る場所がわからなくなる病態をお持ちでした。何とか課題の難易度を調整できないかと、考えたのが床にテープを貼り、テープの向きで座る場所がわかるようにした今回の取り組みでした。症例様とうまくマッチングしたようでADLの自立度は向上し、自宅への退院が可能となりました。作業療法士は対象者、動作、環境へのアプローチが可能な職種と考えています。私自身、今回の症例様を通して改めて多角的なアプローチの必要性を感じました。学会発表は準備が大変と考える方も多いと思いますが、発表やその準備の過程で大変さ以上に得るものが多いです。新型コロナウイルスの流行で学会自体に参加したことのない方もいるかと思います。まずは参加して学会を知ってみてはいかがでしょうか？皆で富山県作業療法学会を盛り上げれたら嬉しいです。

最後に、地震の影響により、会場の変更や調整にご尽力いただいた学会の運営に携われた方々にこの場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。



第22回富山県作業療法学会より

お知らせ

第22回富山県作業療法学会は令和7年2月23日（日）にアイザッ小杉文化ホールにて開催いたします。

今回の学会テーマは「つながるもので見えてくるもの 私たちのリスタート」としました。

コロナ感染が第五類に移行したいま、顔の見える関係作りを再開したいと考え、制限なく大勢の仲間と集まりたいと考えています。コロナ禍で身動きが狭まった期間に培った作業療法の成長を語ったり、共有したりして伝え合いたいと思います。

人と人・人との・人と技術をもとに作業療法のつながりを再認識・再構築しつながることで見えてくるものを実感してほしいと思います。学会に参加した後、臨床に戻って新たな作業療法のリスタートをきってもらえるような学会にしたいと考えています。

学会企画のシンポジウムではICT関連を予定しています。また、ワークショップの企画も考えております。今回ハイブリッド開催の方式を考えていますが、会場に出向いていただき臨場感をぜひ体験して頂きたいと思います。演題募集の際には、新人OTからベテランOTの方までたくさんの応募をお待ちしております。自分たちの作業療法を紹介してください。そして、県士会員同士がつながりを広げ、富山県作業療法士会を盛り上げていきましょう。

今回の学会は、高岡地区が担当します。高岡・射水・氷見地区のメンバーが集結しより良い学会になるよう頑張っておりますので、是非たくさんの方に参加して頂きたいと思います。



福利厚生部よりお知らせ

富山県作業療法士会員の皆さんへの福利厚生の一つとして、株式会社geneのWEB研修「リハノメ」を県士会員は**20%OFF**で受講できるよう準備中です。

受講を希望される方は、後日割引クーポン獲得の申し込みを開始しますので、いましばらくお待ちください。

Google フォームにてクーポン受取の申し込み



クーポンコードのお知らせが届きます



クーポンコードを利用して受講申し込み・受講

研修受講
までの
流れ

* 県士会で受講の取りまとめを行うものではありません。研修の申し込みは個人でお願いいたします。

* 県士会員以外の方にクーポンコードの情報漏洩・不正のないようお取り扱いには十分ご注意ください。

運転と作業療法委員会 研修会を開催して

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

佐々木 舞

運転と作業療法委員会では、年に1回の研修会を企画し、開催しています。今回は、令和6年1月25日に、「地域における移動支援について」といったテーマで、リハラボ訪問看護リハビリステーション町田 作業療法士 永島 匡先生に、ご経験を踏まえてご講義いただきました。参加者は作業療法士36名であり、活発なご意見や質疑がなされ大変有意義な研修会となりました。

当委員会のこれまでの取り組みとして、脳損傷の方への運転支援の研修会、作業療法士向けの自動車運転支援におけるパンフレット、病院-教習所間連携シートの作成などをしてきました。しかし、病院での取り組みが中心であったこと、生活期・介護保険分野での高齢者の移動支援について困っているといった声が多くみられていました。

永島先生は、「地域とともにに行う移動支援」「地域で移動支援を支え合うまちぐるみの取り組み」という考え方で様々な講演、勉強会、地域と自治体との連携など精力的に取り組まれておられます。

地域や自治体との連携として、外出や買い物支援を目的に地域巡回バスくらちゃん号、地域支え合い方ドライバーの養成研修、利用可能な乗り物や人などの情報収集・提供ができる移動支援ツー

ル「まちモビ」の立ち上げなど様々な取り組みについて学ぶことができました。

自社での取り組みでは、退院・転院、遠方への旅行支援、デイサービスバスを用いた施設入居者の外出支援など、地域特性を踏まえた様々な移動支援プロジェクトを実践されています。さらに、企業との連携として各交通サービスにアプリ内での一括利用を実証、また富山市での地域交通網の形成計画にも携わっておられました。

「社会の作業上のニーズを満たす」ことの一環として、作業療法士は対象者の「生活」を支援する専門職として、移動に困らない街づくりに貢献できる可能性があることを理解できました。

富山県は、自動車保有率が高く、公共交通手段がまだまだ不十分と考えられます。そのため自動車運転ができなくなった時についての移動手段は重要であり、大きな課題となります。移動支援=地域を知ることであり、それが日常生活の質を向上させ、街づくりにも活かせることを認識しました。

今回の研修会で得られた学びを活かせるよう、富山県士会当委員会として、より地域にも目を向け、今後の課題として取り組んでいきたいと思います。

精神障害部会研修

「精神科病院における身体リハビリテーションのすすめ方」 に参加して

谷野呂山病院 坂田 嶺

今回、独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センターの石橋雄介先生による講義、「精神科病院における身体リハビリテーションのすすめ方」に参加させて頂きました。

「61.9%」。この数字は2017年時点での入院患者のうち65歳以上の割合です。1995年では26.7%であることを考えるとかなりのペースで増加しており、2024年の現在はさらに増えていることが予想されます。入院患者の高齢化や、精神症状が原因の長期臥床・活動性低下から来る廃用性症候群といった精神科特有の機能低下など、精神科における身体リハのニーズは高まっていると思われます。私自身、精神科での臨床を続ける中で車椅子や歩行状態の悪い高齢の患者様を見る機会が増え、精神科においても身体へのアプローチの必要性を強く感じている最中での、今回の講義でした。

全国の精神科作業療法責任者に「精神科病棟にも身体リハを導入するべきか」とアンケート調査をしたところ、96%の病院から「はい」と返答が得られたそうです。しかし施設基準や人員要件、コストを考えると精神科病院では、疾患別リハビリテーションではなく、精神科作業療法の時間内で精神科作業療法士が身体リハを実施することが続くだろうということでした。

では、どのように身体リハをしていくのかと言う所ですが、本講義では寝たきりの原因となるメ

タボとロコモにならないための「予防」を観点として取り上げていました。精神疾患を持つ人はその精神症状、薬、療養環境などの影響からメタボやロコモになりやすいことが報告されています。それらの予防が肝要であり、身体機能の簡便な評価方法であるSPPB (Short Physical Performance Battery) や導入しやすい運動を「車椅子レベル」「歩行補助具使用、伝い歩きレベル」「独歩自立」と対象を分けて紹介して頂きました。特に興味深かったのは、介護予防のための運動を短期集中で行うことで2、3年は介護レベルが維持されるが5、6年ほどで介護レベルは上がってしまうこと。その一方、運動教室、食事会、趣味活動などの「通いの場」への参加やボランティア活動といった社会活動への参加をすることで要介護状態の抑制効果が認められた、という話でした。身体リハとして運動を行うことに留まらず、そこからOTプログラムに繋げ、患者様が継続して参加できるよう絶えず工夫をしながら関わり続ける必要があると再認識することができました。

今回の講義で知ることができた評価や運動プログラムを早速臨床で試していますが、中々プログラムに乗ってこられない患者様もいらっしゃり難しさを感じています。しかし寝たきりにならないよう「予防」が大事なのだと自他共に啓発し続けていこうと思います。

News letter

一般社団法人 日本作業療法士協会
地域社会振興部 地域事業支援課 地域包括ケア推進班主催

Vol.3

第3回地域事業支援会議 富山県士会版



生活作業療法委員会では、日本作業療法士協会 地域包括ケア推進班主催の地域事業支援会議に定期的に参加しています。
全国の地域事業の取り組みや方針を学べる良い機会となっております。
今回はその会議の一部を報告致します。

作業療法士は地域共生社会を理念で終わらせない

今年度開催3回目の会議は、2024年3月3日（日）にオンラインで開催されました。全国から選任者が73名、聴講者56名、班員等が25名の計154名の方が参加されました。当士会からは、佐賀真也（ソフィアメディ訪問看護ステーション射水サテライト高岡）、福田恵津子（公立南砺中央病院）が参加しました。山本伸一会長のご挨拶始め、佐藤理事から「総合事業の在り方」について、自立支援・介護予防が必要となる背景や理念の再確認を頂き、これから作業療法士が取り組むべきビジョンについてお話し頂きました。

「総合事業の在り方」



日本作業療法士協会
理事 佐藤孝臣

班員からの事業報告、3士会からの取り組み事例報告

地域共生社会5か年戦略・重点活動項目の中から、今回は「地域づくりに資する作業療法参画モデル事業」「市町村担当者配置事業」「地域事業参画推進のための士会マネジメント事業」について、そして「OT参画実態調査」についての報告がありました。

全国の取り組みの中から、今回は3士会（兵庫県士会、茨城県士会、山形県士会）から報告がありました。具体的な内容としては、地域特性の紹介、現在の地域支援参画状況、市町村担当者をどのように配置したか、市町村に配置するまでの課題と解決策等について報告がありました。

グループワークを開催 テーマ：市町村配置の振り返りと意見交換

会議の後半は、市町村配置の振り返りと意見交換をテーマにグループワークを行いました。

1. 市町村担当者配置についての工夫点や課題

「日本中の隅々まで作業療法を」届けるための市町村配置の方法について、各士会で工夫している点、現状の課題等について共有を行いました。

内容の一部：

- ・市町村向けに担当者配置のマップを作成している
- ・複数の市町村を複数で担当する方法が良いと感じた
- ・担当者間での熱量の違いが課題と感じている



2. 市町村事業における各士会での体制

市町村事業を実施している中で、各士会での体制について工夫している点等を意見交換を行いました。

内容の一部：

- ・実際に地域で行っているOTの研修会等に行政や地域包括職員の方に参加してもらい、理解啓発や連携促進を図っている



編集後記

他県の県士会の取り組みを知る良い機会となりました。地域の活動に興味のある方や地域事業支援会議に参加してみたい方は、ぜひ委員にお声かけください！今後ともよろしくお願ひいたします。 生活作業療法委員会 担当：福田恵津子

施設紹介

さくらニューロ訪問看護ステーション 位寄 浩平

さくらニューロ訪問看護ステーションは、さくらニューロクリニック併設の事業所で、富岩運河環水公園近くにあります。

2019年4月に「さくら脳とこころの訪問看護ステーション」として設立され、2023年4月に「さくらニューロ訪問看護ステーション」へと名称変更されました。

職員体制は、看護師12名、リハビリ職員9名（作業療法士4名、理学療法士3名、言語聴覚士2名）、事務1名となっています（2024年5月現在）。

訪問範囲は、富山市をはじめとし、射水市、高岡市、滑川市、魚津市となっており、広範囲の受け入れ体制を整えています。

「ニューロ」の名称が当ステーションの特徴を示しており、対象疾患は神経難病、脳血管疾患、精神疾患が主となっています。中でも、パーキンソン病関連疾患が全体の三分の一を占めており、パーキンソン病の方の在宅生活を支えることが大きな役割の一つとなっています。

利用者様の生活がそれぞれ異なる事はもちろんのこと、パーキンソン病は症状が多岐にわたることから、支援していくためにはとても多くの知識や技術が必要となります。また、単独の職種で支援が完結することは無く、事業所内・

外との密接な連携がとても重要となります。利用者様と関わる中で支援方法に悩む事も多くあります、チームでコミュニケーションを取りながら、勉強会などで知識のアップデートをしながら、日々奮闘しています。

また、当法人の最近の取り組みとして、2024年3月からパーキンソン病カフェも開催しており、パーキンソン病と診断されて初期の段階から支援する取り組みも実施しています。



日本的人口の高齢化とともに、パーキンソン病の患者数は今後も増加していく事が予測されています。パーキンソン病の方の在宅生活を支えるという当ステーションに課せられている役割をしっかりと果たせるよう努力していきたいと思います。



会員リレーコラム



老人保健施設
アルカディア雨晴
宮前 帆花

県士会の皆様こんにちは。老人保健施設アルカディア氷見の大杉真優佳さんからバトンを受け継ぎ今回のコラムを担当させていただきます。老人保健施設アルカディア雨晴に所属しています。宮前帆花です。大杉さんとは同期としてアルカディア雨晴で一緒に仕事をしていました。私は入社して5年目になりますが、入社

したときにはコロナが流行し始めたころだったので、施設の行事などが中止になっていました。最近は縮小はされていますが納涼祭など再開し始めており、参加できることに少しワクワクしています。

さて、今回は私の趣味について少し書かせていただきたいと思います。私は熱しやすく冷めやすい性格のため趣味もあまり長くは続かないのですが、そんな私が何年も継続している趣味を2つ書かせていただきます。1つ目の趣味は

ランチやカフェ巡りをすることです。1日に何件もハシゴすることもあり、毎回食べたものを写真に残しているのですが、振り返ってみると約1000店も巡っているようでした。富山の飲食店だけでもこれ以上あると思うと驚きです。コロナ禍でなかなか外に出づらい状態で県内のお店を巡っていましたが、今後は県外の気になるお店や旅行にも沢山行きたいと思っています。2つ目はものづくりです。アクセサリーやトートバッグを作ったりしています。自分で作ったものなので他人と被ることなく自由にデザインできるところが魅力かなと思います。施設では利用者さん達と一緒に折り紙や画用紙を使い壁装飾や部屋に飾ることのできる小物を作ったりしています。毎回、難易度の調整に苦労していますが、「楽しかった」と言っていただけることや完成したときの達成感があり楽しく行えています。今後も、趣味を活かしながら楽しく活動していきたいです。

最後に、次は介護老人保健施設きぼうに所属している佐伯絃里さんにバトンを渡したいと思います。よろしくお願いします。



厚生連高岡病院
大崎 優暉

県士会の皆様こんにちは。大学の同期である藤平美結さんからバトンを受け継ぎ、今回のコラムを担当させていただきます。厚生連高岡病院の大崎優暉と申します。今回は個人的ビッグニュースのお話をします。2004年から20年間に渡り親しまれてきたユニバーサル・スタジオ・ジャパンの人気アトラクション「アメイジング・アドベンチャー・オブ・スパイダーマン・ザ・ライド」がその歴史に幕を下ろしました。私はこのニュースを耳にした時、最後に乗らないわけにはいかないと思い、今年の1月にファイナルライドを体験してきました。アトラクションは最後のスパイダーマンをと訪れる人々で賑わい、最大180分待ちの大行列でしたが、施設内の待ち列を少しずつ進んでいるときも、作品の舞台であるニューヨークシティの新聞社「DAILY BUGLE」を再現した展示物を目に焼き付けながら楽しんでいるとあつという間でした。本命のライドも幼い頃に感じたス

リルそのままで、非常に楽しく終えることができました。

またこれを機に好きだったスパイダーマンシリーズの映画を見直しました。シリーズは実写版だけでも全8作品あります。ここで私が好きだった3作品を紹介します。それは「スパイダーマン2」、「アメイジング・スパイダーマン2」、「スパイダーマン：ノー・ウェイ・ホーム」です。これらはそれぞれ監督、キャストが違うため、演じられる主人公：ピーター・ペーカーのキャラクターも全然違いますが、それぞれの良さがあるためどれも非常におもしろいです。文字数の都合で魅力は語り切れませんが、ぜひ一度ご覧になってはいかがですか。

次のバトンは福岡町たぐちクリニックの田口鼓太郎さんに渡そうと思います。よろしくお願いします！



■会員異動等

種別	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
異動	加藤 遥紀	富山西総合病院	介護老人保健施設 チューリップ苑	
異動	川上 陽子	介護老人保健施設 おおぞら	光ヶ丘病院 訪問リハビリテーション光ヶ丘	
異動	高木 初代	富山協立病院リハビリテーション科	在宅福祉総合センター きずなデイサービスセンター	
異動	高橋 香織	済生会富山病院	サコージュ・デイサービス金泉寺	
異動	橋 蒼生	西能みなみ病院	西能病院	
異動	長森 史絵	高岡市だいごディサービスセンター	いきいきサポートセンターゆめ	
異動	鶴尾 智子	南砺市訪問看護ステーション	南砺市民病院	
異動	渡邊 純子	自宅	NPO法人ダイバーシティこどもの家	
改姓	金山 はるな			旧姓:北岡
改姓	高野 友香里			旧姓:米澤
退会	伊東 朱音	富山西リハビリテーション病院		
退会	梅村 衣葉	介護老人保健施設みどり苑	記載なし	
退会	安井 純賀			
再入会	高橋 朗		合同会社WELTO	
再入会	田中 舞	神奈川県作業療法士会から異動	市立砺波総合病院	
2023年度入会	宮田 貴大		杉野脳神経外科病院	
2023年度入会	松井 琉翔		リハビリ・デイサービスおやべ	
新入会	竹村 祐貴		アルペンリハビリテーション病院	
新入会	奥出 啓介		介護老人保健施設 アルカディア雨晴	
新入会	竹下 広武		介護老人保健施設 チューリップ苑	
新入会	林 寛介		介護老人保健施設 みどり苑	
新入会	森谷 真衣		金沢医科大学氷見市民病院	
新入会	前野 孝太朗		厚生連高岡病院	
新入会	松永 莉奈		済生会富山病院	
新入会	常川 一紗		済生会富山病院	
新入会	西尾 帆華		済生会富山病院	
新入会	福島 寛晃		市立砺波総合病院	
新入会	石野 果歩		特別養護老人ホーム 藤園苑	
新入会	金井 秀太		富山協立病院	
新入会	松岩 ゆう		富山協立病院	
新入会	下条 百花		富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター 成人療法課	
新入会	松田 目和		富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター 成人療法課	
新入会	平川 佳奈		富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター 成人療法課	
新入会	速水 愛華		富山県立中央病院	
新入会	田中 颯		富山労災病院	
新入会	川口 美空		光ヶ丘病院	
新入会	田口 鼓太朗		福岡町たぐちクリニック	
新入会	田中 緋萌		丸川病院	
新入会	藤田 法子		NPO法人 和おん	
新入会	竹内 佑	金沢リハビリテーションアカデミー	富山リハビリテーション医療福祉大学校	

令和5年度 第9回理事会

日時：令和6年2月15日（木） 19時より

ZOOMによるWEB会議にて開催

出席者：齋藤、松岡、島津、吉波、渡邊、大平、丁子、
安本、堀口、中山、塚田、水島、能登、小倉、
桐山、水島、森、 <財務>沖、桜井

欠席者：中川

《報告事項》

1. 県土会関連事業

1) 災害委員会

- ・安否確認最終報告
- ・安否報告延べ数335件（病院施設、自宅会員）
※本人全員無事、家族被害確認中2件
<個人回答（実人数）合計総会員652人中、298人
から報告あり45.7%>
病院・施設回答数286名（県土会会員数622人、
46.0%）
自宅会員 回答数 12（会員数30人、40.0%）
病院・施設回答（実人数）県土会病院・施設176件
中、131件の報告（74.4%）
<被害状況（延べ数）>
施設：被害あり、機能維持114件（延べ）
機能停止1件（ただし、同施設士会員からの報告では「被害なし」との報告あり。
自宅：被害ありだが住める66件（延べ）
・大平理事よりJRAT、DPATの流れについて説明
・震災発生後の対応について説明
・日本作業療法士協会からの災害支援金について
・大分県土会、福井県土会、OT協会→受け取ること
で了承。

2) 教育部

- ・生涯教ポイントの申請について

3) 富山県作業療法学会

- ・令和6年2月25日 富山県民会館にて開催。

4) 福利厚生

- ・geneよりオンライン割引について（安本理事）

5) 選挙管理委員会

- ・菱田委員長交代のため、新しい委員長の推薦。

2. 富山県関係事業への対応

1) リハビリ専門職団体協議会

2) SPCA

- ・齋藤会長、岡田氏（富山大学） 出席

3. 東海北陸ブロック事業

1) 北陸3県MTDLP事例検討会

- ・石川県土会が主催であったが延期。

2) 士会長会議

- ・議事録送付

4. 協会関連事業

1) 第4回協会長・都道府県土会長会議

- ・3月9日 オンライン開催。3月1日〆切。5拠点
まで。

- ・地域保健事業、組織説明について等

- ・齋藤会長、島津事務局長、大平理事、塚田理事、

2) リハビリ議員連盟

- ・診療報酬改定に向けての取り組み

3) 診療報酬

- ・介護保険、医療保険、障害福祉サービスについて周
知

《検討事項》

1) 令和6年度予算案

- ・3月理事会でも再検討

2) 事務局機能について

- ・郵送物について、事務局長に県関連、協会関連のも
の送付
- ・事務局移転について

令和5年度 第10回理事会

日時：令和6年3月14日(木) 19時より

ZOOMによるWEB会議にて開催

出席者：齋藤、桐山、松岡、島津、吉波、大平、吉波、
中山、中川、丁子、能登、堀口、小倉、森

欠席者：

《検討事項》

- ・体验会⇒県立中央病院、厚生連高岡病院で開催
- ・県土会の旗⇒啓発のため増やす
- ・三役の申し送り時間要す為、会議扱いとして交通費、
日当の支払いについて⇒賛成多数で承認
予算案では会議4回程度。来年度（6年度）から事
務財務担当者会議などで連絡。
6年度分の予算に入れる。

【学会について】

○令和6年度の県学会について

- ・予算案提出済：総額69万程度 アイザック小杉文
化センター
- ・ハイブリットか現地か検討中

○今年度学会

- （参加者：140～150弱、運営スタッフ含む）
- ・決算⇒支出予定予算よりやや多い
- ・アンケート⇒ZOOMでみれないものがあった。
- ・反省点⇒案内の仕方が足りなかつた（どの研修が
ZOOMでみれるか、オンデマンドなど）
- ・オンデマンドでは費用がかかる、現地だけではどち
らも見れない
- ・企画が多く内容は良かったが、情報が多くて参加者
に情報をまとめて発信するのが難しい

【災害委員会】

- ・JRAT：来週JRATの募集案内送る予定⇒5月に報告会
を予定
県内のOTがどれだけ関わったかまとめた物があれ
ば良いのでは

○被災者への支援について

- ・次年度の会費免除・会費減額について
(今後の検討課題)

- ・安否確認届け出：自宅被害60人 状況の詳細は把握
困難

- ・今後、罹災証明の提出を確認するかどうか。

⇒罹災証明の内容・区分を調べてから検討
 ⇒その後、相談窓口を作つて対処しては（案）
 他県情報：2県は会費の免除のみ
 1県は明確なものなし

【リーダー研修会について】

- ・検討委員会の立ち上げ
 (担当理事 2名：堀口氏、能登氏)
- ・運営委員は過去の参加者から声かけ行う予定とする
- ・以降は運営委員会で進めて進捗状況を理事会で報告
- ・予算⇒振込先の通帳をどうするかを財務部と検討
 (企画調整局の通帳を確認)

【予算の確認】

- ・発達部会
 学校支援事業⇒時給について 6 時間要す
 研修会⇒OTで4時間
 令和6年度の給与（納税）に関しては事務・財務と相談
 学校支援に対する報告⇒メールで提出済
- ・生活作業療法委員会
 委員会数 7 回へ修正、合計金額変更なし
 委員会の会議数は理事会で承認

【選挙管理委員長について】

- ・小倉氏、飯野氏に打診する

【新入部員の部会希望について】

- ・人数を多く希望する委員会は松岡氏に事前連絡を

【総会について】

- ・事業報告は総務部メールに3月まで
- ・総会時に例年の議題以外にその他議案があれば事務局に連絡
- ・日時：6月9日（日）富山医療福祉専門学校（予定）



一般社団法人 富山県作業療法士会より

メーリングリスト登録のお願い

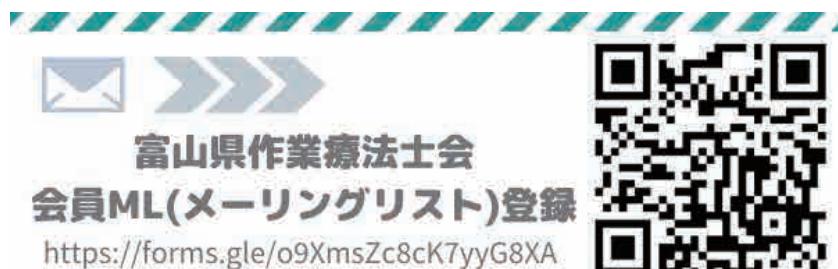
現在、メールを通じて、ホームページや施設宛ての発送以外に
 多くの情報を配信しています。
 これまでに、多くの会員の方に登録していただきました。
 登録がお済でない方は、登録をお願いします。

■対象

一般社団法人 富山県作業療法士会会員

■配信内容

- 協会や県士会が主催する研修会の開催や変更に関するお知らせ
- 作業療法に関する情報（制度改定や最新情報等）
- 災害時の緊急連絡や情報提供
- 協会や県士会からの事務的な連絡
- その他作業療法に有用な情報 等





編集後記

2024年度がスタートしました。

今年はオリンピック年であり、多くのアスリートが挑戦や飛躍に向けて励む年になります。

新人で新しい仕事を始めている方、徐々に仕事に慣れてきた方、経験年数を重ねて職場での立場や役割が色々変わってくる方など会員それぞれが違った思いを持ちながら日々の業務を送っていると思います。

1人1人の個性を活かして、より良い作業療法を現場で実践していければ良いなと思います。

より多くの方々が挑戦や飛躍につながる2024年度にしていければ良いですね。

I.K

賛助会員名簿 (順不同)

会員名(代表者)	住所
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (学長 米島 學)	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
株式会社 富山県義肢製作所 (代表取締役 森田 忠浩)	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 (理事長 青池 浩生)	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目 4番5号 TEL 076-491-1177
Life Create株式会社 (代表取締役 北野 満)	〒932-0814 小矢部市赤倉207 リハビリ☆デイサービスおやべ TEL 0766-67-2001
医療法人社団桑山会 丹保病院 (病院長 丹保 仁)	〒933-0918 高岡市大坪町1-1-3 TEL 0766-22-3719

作業療法士さん 募集 しています。

週1~2回、週4~6時間程度 (就業時間、休日等はご相談下さい)

- ▶ ダブルワーク希望の方
- ▶ 子育て中の方
- ▶ リタイヤされている方



年齢は問いません

- | | |
|------|-------------------|
| 時給 | 2,000円~ |
| 時間 | ご希望に応じます |
| 休日 | ご希望に応じます |
| 交通費 | 支給 (規程通り) 駐車場あります |
| 有休休暇 | 有り (法定通り) |
| 就業場所 | 丹保病院 (転勤はありません) |

高岡市大坪町1丁目1番3号
医療法人社団 桑山会 丹保病院
丹保病院介護医療院
☎(0766) 22-3719 担当 山本
✉ tanbo@fine.ocn.ne.jp